2026 年度第4回　MH フォーラム

日　時：2026 年 12 月 21 日（月）14：00 ～17：15　　開催方式：対面リアル開催

会　場：懇話会館 13F 第２・３会議室　住　所：東京都中央区築地１－１２－２２ コンワビル１３Ｆ

主　催：日本マテリアル・ハンドリング（MH）協会　　後　援：公益社団法人日本包装技術協会（JPI）

参加費：MH・JPI 会員＝ ５，５００円（税込）　・　一般＝ １１,０００円（税込）

14:00 | 15:30

①中国 AI・ロボティクス最前線

～物流・製造現場で進むフィジカル AI と、中国企業との競争・協業の可能性～

【講演者】ジャンシン（匠新）創業者 CEO

田中　年一　氏

中国では AI の進化がデジタル空間から現実世界へと広がり、物流ロボットやヒューマノイドロボットなど「フィジカル AI」の社会実装が急速に進んでいます。本講演では、中国 AI・ロボティクスの最新動向と物流・製造現場での具体的な活用事例を紹介するとともに、中国企業の競争力や産業構造を読み解きます。その上で、日本の物流・マテハン関連企業が中国企業を単なる競合としてではなく、技術・製品・事業面での協業相手としてどう捉え、活用していくべきかを考察します。私からは中国 AI・ロボティクスの最新動向や中国企業の競争力、日本企業との競争・協業の可能性を中心に、齋藤さんからは物流現場におけるロボット活用・実装について、より具体的なお話をいただく形にできればと考えております。

15:45 | 17:00

②物流現場で成果を生むヒューマノイド導入の考え方

～投資対効果を見極める５つの視点と、複合ロボティクスによる自動化～

【講演者】Chinoh.Ai 株式会社　代表取締役／CEO

齋藤 誠一郎　氏

物流現場へのヒューマノイド導入では、どの作業に適用すれば実際の省人化や投資対効果につながるのかを見極めることが重要です。本講演では、業界の分類にとらわれず、現場の作業を分解し、有望なユースケースを選ぶための 5 つの視点を解説します。
併せて、「人の仕事をそのまま丸ごと置き換えられる」「人型であればあらゆる作業に適している」といった誤解を整理します。当社が取り組んできた AGV・RGV・AGF・ロボットアーム等を組み合わせた自動化の実績と現状を紹介し、それぞれの得意領域を活かす複合ロボティクスの考え方をお伝えします。
その上で、ヒューマノイドを既存の自動化に組み込むことで、これまで人手が残っていた作業にどのような可能性が生まれるのかを考察します。特に、人を前提とした設備や生産ラインを短期間で大規模改造することが難しい現場で、既設設備を活かしながら導入する意義と、段階的な実証の進め方を取り上げます。

17:00～17:15

【質疑応答・名刺交換】

日本 MH 協会　研修係行（メール：maruyama@jpi.or.jp　／　FAX：03-3543-8970）

2026 年度第４回 MH フォーラム申込書　□会員（MH・JPI）　□一般

（　↑　どちらかにチェックしてください　↑　）

貴　社　名	
所属・役職 / お名前	／
E-mail（必須）/ TEL	／　－　－
ご　住　所	〒

・当会では個人情報の保護に努めております。詳細は当会ホームページ「個人情報保護方針」(https://www.jmhs.gr.jp/JMHS_Private.htm)をご覧ください。

・お申込みは１名ずつ行ってください。(メールアドレスの記載のない方は、参加受付が出来ません。)

・定員30名でございます。定員になり次第、締め切りますので、お申込みはお早めにお願いいたします。

・問い合わせ先：日本 MH 協会 Tel 03-3543-9335 研修係